

** 2023年10月（第14版）

製造販売届出番号：11B1X1000650D204

** 2019年 5月（第13版）

機械器具 50 開創又は開孔用器具
 一般医療機器 歯科用開口器（70949000）

口角鉤

【形状・構造及び原理等】

〔形状・構造等〕

1. 形状（代表例）



** 2. 材質・組成

TPX 又は PP

【使用目的又は効果】

本品は、患者の開口状態を保持させ、口腔内の視野を確保する器具である。

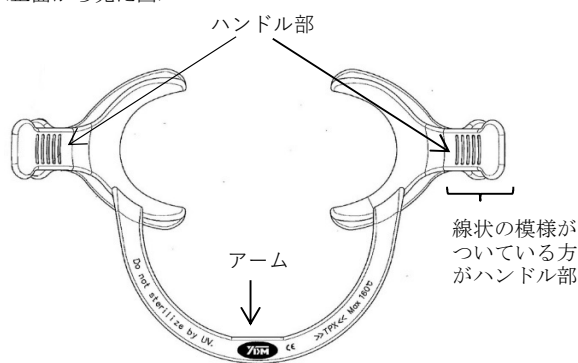
【使用方法等】

1. 【保守・点検に係る事項】に従い、使用に先立って洗浄・滅菌を行う。
2. <下記に使用方法を記載している物以外> 通法に従い操作する。

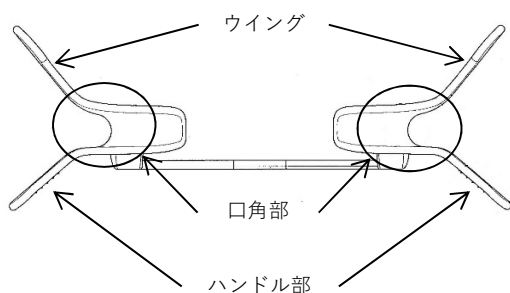
<口角鉤アングルワイダーワイド（ピンク）>

下図を参照に各部名称を確認しながら、①～④の手順に従い、操作する。

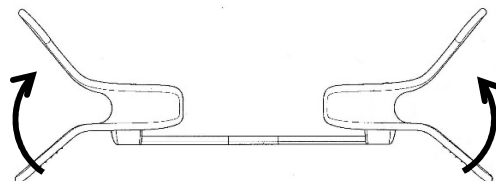
<正面から見た図>



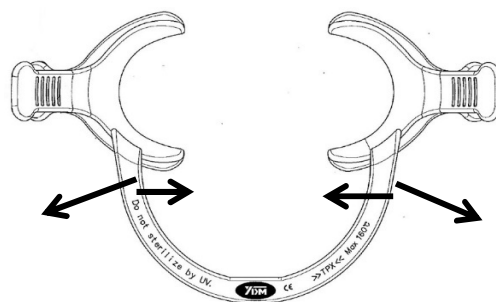
<上面から見た図>



①ハンドル部を持ち、矢印の方向へ縮める。



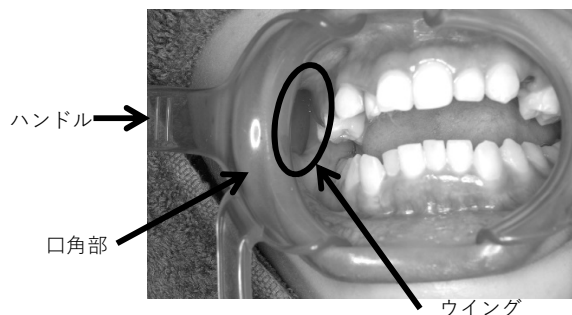
** ※本品を縮める際、アームを以下の方向に動かすと、アームが破折する恐れがある。



②両側のウイングを頬粘膜に沿わせ、口腔前庭に挿入する。

③口角部に口唇を上唇、下唇の順にはめ込む。

④両側のハンドル部を持ち、ウイングで頬粘膜を圧排しながら徐々にアームを広げる。

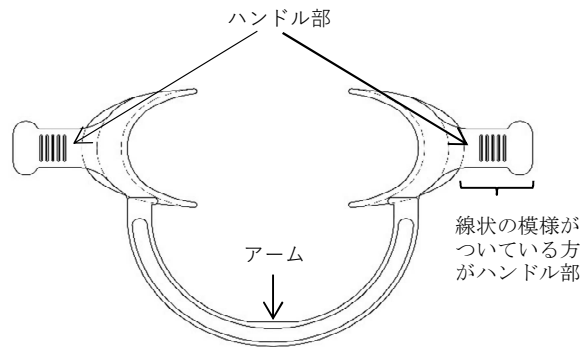


3. 【使用上の注意】及び【保管方法及び有効期間等】に従う。

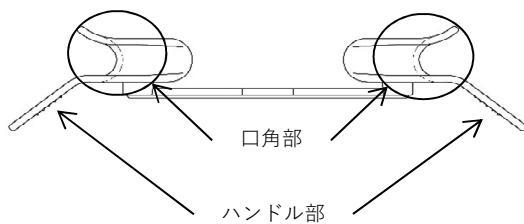
＊ ＊ ＜口角鉤アングルワイダーダブルソフト＞

下図を参照に各部名称を確認しながら、①～④の手順に従い、操作する。

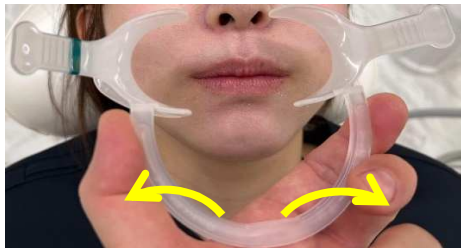
＜正面から見た図＞



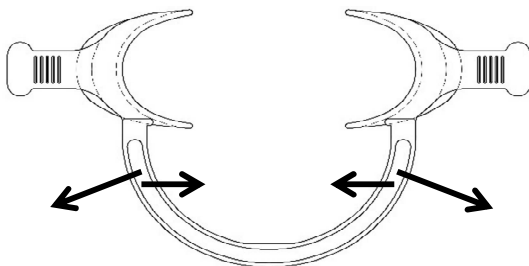
＜上面から見た図＞



①線状の模様と向かい合う状態にして片手でアームを掴み、“アームの中心から山折りにするイメージ”で軽く曲げる（たわませる）。



※アームを以下の方向に引っ張ると、アームが破折するおそれがある。



②口角部に口唇を左右一方ずつはめ込む。



③曲げ（たわみ）をゆっくりを開放し、ハンドル部を使って位置を調整する。



3. **【使用上の注意】及び【保管方法及び有効期間等】に従う。**

【使用上の注意】

（重要な基本的注意）

1. 患者ごとに**【保守・点検に係る事項】**に記載する方法及び条件で、速やかに滅菌前の洗浄・滅菌を行い、使用すること。
2. 本品を用いた処置により発疹、皮膚炎などの過敏症状又はアレルギー症状が現れた患者には、使用を中止し医師の診断を受けさせること。
3. 破折等による誤飲の恐れがあるので、以下は行わないこと。

①本品に対する曲げ・切削・加圧等。

②粗雑な扱い。（キズをつける・落下させる・強い衝撃を与える等）

③バーナ等による加熱。

4. 薬液等が付着した場合、腐食する恐れがあるので速やかに清拭すること。

【保管方法及び有効期間等】

（保管の方法）

・保管の条件

1. 高温・多湿を避け、塵やほこりのない清潔な場所に保管すること。
2. 破損、変色又は異臭の原因となる為、紫外線保管庫による保管は行わないこと。
3. 変形の原因となるので、トレー・コンテナによる移動及び保管は丁寧に行うこと。なお、トレーやコンテナを使用する際は重い器具を載せないこと。

【保守・点検に係る事項】

（使用者による保守点検事項（日常点検））

1. 〈洗浄・滅菌の方法〉で指定する方法及び条件で、患者ごとに滅菌前の洗浄・滅菌を行うこと。
2. 使用前に汚れ、破損、ヒビ、キズ又は腐食等がないか点検すること。

（洗浄・滅菌の方法）

＊ ＊ ※『口角鉤アングルワイダーダブルソフト』のみ滅菌方法が異なることに注意すること。

＊ ＊ 『A・B・C・D／ビジョンSS・S・M／アングルワイダー
ソフト・ワイド・小児用』

1. 本品の洗浄等を行うにあたり、弊社発行の『インスツルメントの洗浄・滅菌ガイドブック』又は弊社ホームページ (<http://www.ydm.co.jp/>) のメンテナンスに関する項目も参照のこと。
- ＊2. 血液・体液・組織片、薬品等により汚染した器具は、汚染物質が乾いて固着することを防ぐ為に、使用後直ちに以下の手順で洗浄・滅菌を行うこと。汚染物質を付着したままにしておくと、除去しにくくなることもある。
 - ① a) 又は b) の手法にて洗浄剤を用い、洗浄する。
 - a) 超音波洗浄器を用い、医療用防錆洗浄剤〔例えば「ゼットワンeco（別売）」〕を温水中に溶解し、超音波洗浄を行う。
 - b) 医療用防錆洗浄剤中に浸漬洗浄する。
 - ② 本品に付着した汚れ・洗浄液等を流水により洗い落とす。（洗浄液中の石鹼成分等が残存し、付着したままの場合、劣化等の原因となる）
 - ③ 本品を乾燥させる。（水分が残っていると錆や滅菌効果低下の原因となる恐れがある）
 - ④ オートクレーブ滅菌器を用いて滅菌する。
3. 他の器具との接触によるキズを防ぐ為、滅菌バッグ・ケース等に入れることを推奨する。
4. オートクレーブ滅菌器は使用状況・期間等により、庫内に汚れが付着している場合がある。汚れが付着したままオートクレーブ滅菌を行った場合、器具へシミが付着する恐れがある。庫内が汚れた状態にならないよう、滅菌器の添付文書又は、取扱説明書に従い、定期的な清掃を奨励する。特に、チャンバー蓋パッキンやエアフィルタは定期的な交換が必要となる場合がある。

＊ ＊ 『口角鉤アングルワイダーダブルソフト』

〈使用者による保守点検事項（日常点検）〉

1. 〈洗浄・滅菌の方法〉で指定する方法及び条件で、患者ごとに滅菌前の洗浄・滅菌を行うこと。
2. 使用前及び使用後に汚れ、破損、ヒビ、キズ又は劣化等がないか点検すること。

〈洗浄・滅菌の方法〉

1. 本品の洗浄等を行うにあたり、弊社発行の『インスツルメントの洗浄・滅菌ガイドブック』又は弊社ホームページ (<http://www.ydm.co.jp/>) のメンテナンスに関する項目も参照のこと。
 - ＊2. 血液・体液・組織片、薬品等により汚染した器具は、汚染物質が乾いて固着することを防ぐ為に、使用後直ちに以下の手順で洗浄・滅菌を行うこと。汚染物質を付着したままにしておくと、除去しにくくなることもある。
 - ① a) 又は b) の手法にて洗浄剤を用い、洗浄する。
 - a) 超音波洗浄器を用い、医療用防錆洗浄剤〔例えば「ゼットワンeco（別売）」〕を温水中に溶解し、超音波洗浄を行う。
 - b) 医療用防錆洗浄剤中に浸漬洗浄する。
 - ② 本品に付着した汚れ・洗浄液等を流水により洗い落とす。（洗浄液中の石鹼成分等が残存し、付着したままの場合、錆やシミの原因となる）
 - ③ 本品を乾燥させる。（水分が残っていると錆や滅菌効果低下の原因となる恐れがある）
 - ④ c) 又は d) の方法にて滅菌又は消毒する。
 - c) 「グルタラル製剤（グルタルアルデヒド）2%溶液」に浸漬する。浸漬後は多量の精製水で十分に洗浄する。なお、孔のある器具の場合は内部まで確実に洗浄すること。
 - d) EOG滅菌器を用いる。
- ※EOG滅菌を行う場合には、滅菌器メーカーの添付文書・取扱説明書を必ず読み、注意事項・使用方法を守ること。

3. 他の器具との接触によるキズを防ぐ為、滅菌ケース等に入れることを推奨する。

〈洗浄・滅菌上の注意〉

1. 次の薬剤は、金属腐食を起こす恐れがあるので、使用しないこと。（ホルマリン、フェノール、グルコン酸クロルヘキシジン、消毒用エタノール、イソプロパノール）

※素材への影響度が添付文書等によって確認できない場合は、薬剤の製造販売元に確認することを推奨する。

＊ ＊2. 『口角鉤アングルワイダーダブルソフト』へのオートクレーブ滅菌は、劣化させるので行わないこと。（『口角鉤アングルワイダーダブルソフト』の耐熱温度は120℃）

3. アルコール等の薬剤を用いるオートクレーブ滅菌は、金属を腐食させるので行わないこと。
4. プラズマ滅菌は、素材に影響を及ぼすので行わないこと。
- ＊5. 紫外線滅菌は、素材に影響を及ぼすので行わないこと。
6. 洗浄の際は以下に留意すること。
 - ① 家庭用洗剤は、デンプン等食品汚れを落とす為に開発されたものであり、血液中に含まれるタンパク質に対しての洗浄効果は期待できない。また、着色料や香料が含まれる為、それらの残存物が金属を腐食させることがあるので使用しないこと。洗浄には、医療用防錆洗浄剤を使用すること。
 - ② 劣化等の原因となるので、磨き粉や金属ウール・金ブラシを使用しないこと。
 - ③ ウォッシャーディスインフェクター等の洗浄装置等を使用する場合には、節水や時短プログラム等を使用すると付着した汚れ・洗浄液等が落ち切っていない場合がある。各メーカーの取扱説明書を必ず参照し、すすぎを確実にし、汚れ等を除去すること。

＊ ＊7. 『A・B・C・D／ビジョンSS・S・M／アングルワイダーソフト・ワイド・小児用』にてオートクレーブ滅菌器を取り扱う際は以下に留意すること。

- ① 出来るだけ精製水（純水）を使用する。水道水を使用すると、塩素イオンの影響で器具が腐食することがある。
- ② 乾燥温度及び庫内温度に注意する。（『A・B・C・D／ビジョンSS・S・M／アングルワイダーソフト・ワイド・小児用』の耐熱温度は160℃である）
- ③ ヒーター近傍に本品を置かない。（表示温度より高くなる場合がある）
- ④ 庫内が高湿となる恐れがある場合には、予熱乾燥を行う。高温の乾燥は、器具が変質又は変色、劣化、破損等することがある。
- ⑤ 洗浄やすすぎが完全でない状態、又はオートクレーブ滅菌器のチャンバー内に水垢が付着している状態のままオートクレーブ滅菌を行うと、器具に焼き付きが発生する恐れがある。
8. 洗浄・滅菌後は、本品に付着した水分を除去し、十分に乾燥させてから保管すること。水分が付着したまま長時間放置すると、錆び、シミ等の原因となることがある。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者名：株式会社YDM

住 所：〒355-0042

埼玉県東松山市今泉28

電 話 番 号：0493-24-3388

ファックス：0493-24-0703

ホームページ：<http://www.ydm.co.jp/>